35020089-01

TeraStation WSS
設定ガイド

※本書では、TeraStation WSS を TeraStation と表記しています。

文中の用語表記

・本書では原則として TeraStation WSS、WS-VL シリーズを TeraStation と表記しています。

・本書では、パソコンでご利用になる場合を想定した操作方法を説明しています。タブレットをお使いの場合は、「クリック」を「タップ」と読み替えるなどして、本書をご活用ください。

・TeraStation のファームウェアやソフトウェアは、最新版に更新してお使いください。本書では最新版のファームウェア・ソフトウェアでの手順を説明しています。

■ BUFFALO™ は、株式会社メルコホールディングスの商標です。TeraStation™ は、株式会社バッファローの商標です。本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。本書では、™、®、© などのマークは記載していません。

■本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更される場合があり、現に購入された製品とは一部異なることがあります。

■本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、お買い求めになった販売店または当社サポートセンターまでご連絡ください。

■本製品は一般的なオフィスや家庭の OA 機器としてお使いください。万一、一般 OA 機器以外として使用されたことにより損害が発生した場合、当社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

・医療機器や人命に直接的または間接的に関わるシステムなど、高い安全性が要求される用途には使用しないでください。

・一般 OA 機器よりも高い信頼性が要求される機器や電算機システムなどの用途に使用するときは、ご使用になるシステムの安全設計や故障に対する適切な処置を万全におこなってください。

■本製品は、日本国内でのみ使用されることを前提に設計、製造されています。日本国外では使用しないでください。また、当社は、本製品に関して日本国外での保守または技術サポートを行っておりません。

■本製品（付属品等を含む）を輸出または提供する場合は、外国為替及び外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。

■本製品の使用に際しては、本書に記載した使用方法に沿ってご使用ください。特に、注意事項として記載された取扱方法に違反する使用はお止めください。

■当社は、製品の故障に関して一定の条件下で修理を保証しますが、記憶されたデータが消失・破損した場合については、保証しておりません。本製品がハードディスク等の記憶装置の場合または記憶装置に接続して使用するものである場合は、本書に記載された注意事項を遵守してください。また、必要なデータはバックアップを作成してください。お客様が、本書の注意事項に違反し、またはバックアップの作成を怠ったために、データを消失・破棄に伴う損害が発生した場合であっても、当社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■本製品に起因する債務不履行または不法行為に基づく損害賠償責任は、当社に故意または重大な過失があった場合を除き、本製品の購入代金と同額を上限と致します。

■本製品に隠れた瑕疵があった場合、無償にて当該瑕疵を修補し、または瑕疵のない同一製品または同等品に交換致しますが、当該瑕疵に基づく損害賠償の責に任じません。

Contents

Chapter 1
Windows Storage Server 画面の表示のしかた

Windows Storage Server 画面の表示のしかた

Windows Storage Server の画面は、次の手順で表示することができます。

NOTE：Mac OS をお使いの場合、あらかじめ Microsoft 社ホームページ http://www.microsoft.com/japan/mac/products/remote-desktop/default.mspx から**「Remote Desktop Connection Client for Mac 2**(Mac OS X 10.3.9 をお使いの場合、バージョン 1.0.3)**」**をダウンロードし、インストールしてください。インストールしないとリモートデスクトップで操作することができません（TeraStation の設定を変更することはできません）。

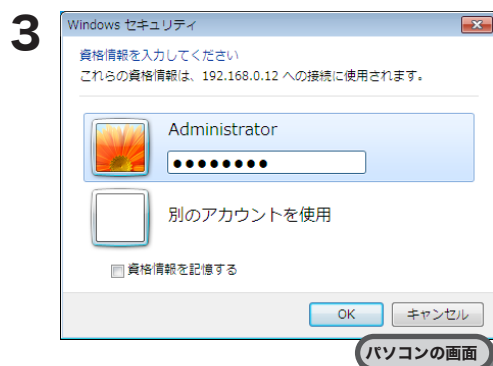
1 デスクトップ画面の［BUFFALO NAS Navigator2］アイコンをダブルクリックします。

NOTE：Mac OS では、Dock 内の [NAS Navigator2] アイコンをクリックします。

2

TeraStation のアイコンを右クリック (Mac OS では、コントロールキーを押しながらクリック) し、表示されたメニューから [リモートデスクトップを開く] を選択します。

NOTE：
- LinkStation、TeraStation が合計 2 台以上同一ネットワークに接続されているときは、アイコンが複数表示されます。設定画面を表示したい TeraStation を選択してください。
- TeraStation のアイコンを選択すると、IP アドレスなど TeraStation の個別情報が確認できます。
- 「接続先のコンピュータの ID を確認できません」と表示されたときは、[はい] または [続行] をクリックしてください。

3

ユーザー名、パスワードを入力し、[OK] をクリックします。

NOTE： 設定画面を表示するときは、次のユーザー名、パスワードを入力してください。

> ユーザー名：**Administrator**
> パスワード：**password**
> ログイン後、セキュリティーのためパスワードは変更してください 。

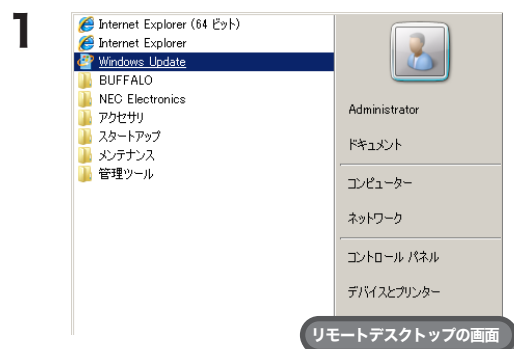
4 リモートデスクトップの画面内で Windows Storage Server のデスクトップ画面が表示されます。

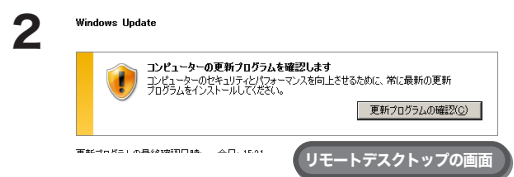
以上で Windows Storage Server 画面の表示は完了です。

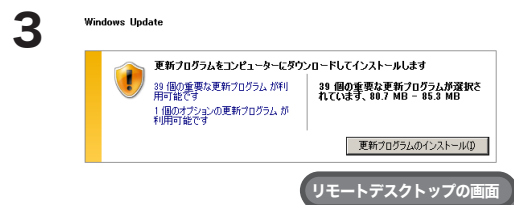
Chapter 2
Windows Update (Windows Storage Server)
Windows Update

NOTE：Windows Update を行うには、TeraStation がインターネットに接続されている必要があります。

セキュリティーのため、Windows Storage Server の Windows Update を次のようにおこなってください。

1

Windows Storage Server 上で [スタート]-[すべてのプログラム]-[Windows Update] をクリックします。

2

[更新プログラムの確認] をクリックします。

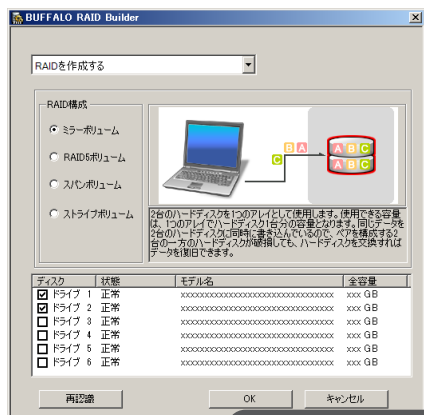
3

[更新プログラムのインストールする] をクリックします。
Windows Update を行うために必要な Internet Explorer のプラグインをインストールします。

以降は画面の指示にしたがってアップデートしてください。

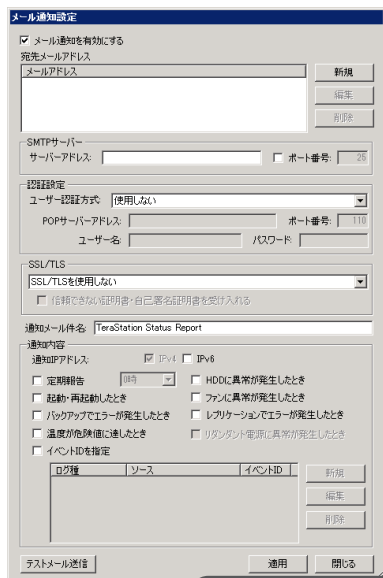
以上で Windows Update は完了です。

NOTE：Windows Storage Server に市販のウィルス対策ソフトウェアをインストールしてください。
TeraStation の USB ポートに USB 接続 CD/DVD ドライブを接続して、ウィルス対策ソフトウェアの CD をセットし、インストールしてください。

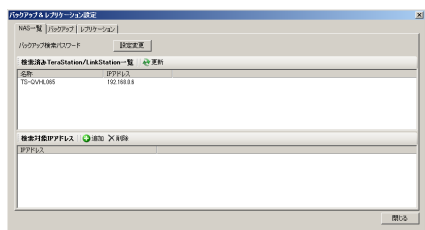
Chapter 3
プリインストールのソフトウェアについて

RAID Builder

RAID 構成を変更するときは、RAID Builder を使用します。

詳しくは P.8 をご参照ください。

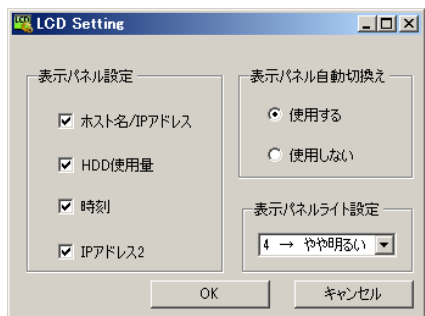
メール通知設定

メール通知設定では、TeraStation の設定を変更したときや異常が発生したとき、指定のメールアドレスにメッセージを送信するよう設定することができます。

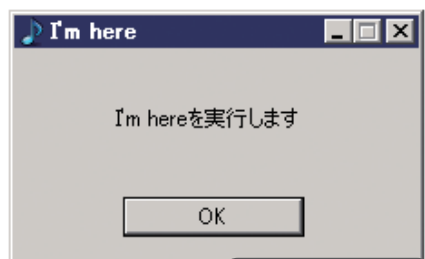
詳しくは P.36 をご参照ください。

バックアップ&レプリケーション設定

TeraStation のデータをバックアップするとき、およびレプリケーションをするときは、バックアップ&レプリケーションを使用します。

詳しくは P.18 、P.22 をご参照ください。

LCD 表示設定

TeraStation に前面の液晶ディスプレイの表示について設定します。
設定項目は次の通りです。

表示パネル設定	TeraStation 前面の液晶ディスプレイ表示させる項目を [ホスト名 /IP アドレス]、[HDD 使用量]、[時刻]、[IP アドレス 2] から選択します。
表示パネル自動切換え	TeraStation 前面の液晶ディスプレイ表示させる項目を自動的に一定間隔で切り替えて表示するかしないかを設定します。
表示パネルライト設定	液晶ディスプレイのバックライトの明るさを 5 段階調整します。
OK	設定した内容を適用します。
キャンセル	設定した内容をキャンセルし、画面を閉じます。

I'm here

[OK] をクリックすると TeraStation からメロディーが鳴ります。複数台 TeraStation を管理している場合、どの TeraStation を設定しているのかを知りたいときにお使いください。

Dashboard

TeraStation のシステム情報の確認やハードディスクの取り外し処理等をすることができます。
TeraStation を起動すると自動で Dashboard 画面が表示されます。
Windows Storage Server 上でタスクトレイの アイコンをダブルクリックしても Dashboard 画面を表示することができます。

システム情報	製品品番：お使いの TeraStation のシリーズ名 コンピューター名：ネットワーク上で認識されている TeraStation の名称 ドメイン：TeraStation の所属ドメイン名 OS 名：TeraStation に搭載されている OS の名称 OS バージョン：OS のバージョン システム製造元：BUFFALO INC.
温度	TeraStation 内の温度が表示されています。
ファン	ファンの回転数が表示されています。
ネットワーク設定	ネットワーク情報 (IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、LAN ポート番号、リンク状態) が表示されています。
ディスク	ハードディスクの状態、番号、名称、容量、物理セクターサイズが表示されています。 ディスクの再認識：ハードディスクの情報を最新に更新します。 ディスクの取り外し：ハードディスクを指定して取り外し処理を行います。 **ハードディスク取り外し手順** **1.** [ディスクの取り外し] をクリックします。 **2.** 取り外したいハードディスクにチェックし、[OK] をクリックします。 取り外し処理を完了すると、ステータスランプが赤い点灯になります。 **3.** ハードディスクを取り外します。 ハードディスクの取り外し処理は、RAID Builder でも行うことができます。 ハードディスク交換手順および RAID Builder での手順は別紙「ハードディスク交換手順」をご参照ください。
HDD の温度が異常値に達したら Windows を強制的にシャットダウン	チェックすると、ハードディスクが高温 (異常値) になった際、TeraStation を自動的にシャットダウンします。
HDD でエラーが発生したら HDD の電源をオフにする	チェックをすると、ハードディスクにエラーが発生した際、ハードディスクの電源を自動的にオフにします。

Chapter 4
ボリュームを作成する

各ボリュームの解説

各ボリュームの特長は次のとおりです。

NOTE: ・ボリュームを変更すると、ボリューム内のデータは全て消去されます。変更する前に大切なデータのバックアップを必ずとってください。
・本書での「復旧」とは、TeraStation 内の状態 (データを含む) を故障が発生する前に戻すことを表しています。故障したハードディスクからデータを読み出すことではありません。
・ボリュームの変更は、未割り当て領域に対してのみ設定できます。未割り当て領域がないときは、ボリュームを削除し未割り当て領域を確保してから操作してください。

● RAID5 ボリューム

3 台以上のハードディスクの各未割り当て領域を 1 つのアレイとして使用します。パリティ (誤り訂正符号) を生成しながら書き込むのでアクセス速度は少し遅くなります。
RAID アレイの中のハードディスク 1 台が故障してもハードディスクを交換すればデータを復旧できます (2 台以上故障したときは復旧できません)。また RAID 再同期中はファイル転送速度が低下します。あらかじめご了承ください。

●ミラーボリューム

2 台のハードディスクの各未割り当て領域を 1 つのアレイとして使用します。同じデータを 2 台のハードディスクに同時に書き込んでいるのでペアを構成する一方のハードディスクが故障してもハードディスクを交換すればデータを復旧できます (アレイを構成する両方のハードディスクが故障した場合はデータを復旧することはできません)。また RAID 再同期中はファイル転送速度が低下します。あらかじめご了承ください。

●ストライプボリューム

ストライプボリュームは、2 台以上のハードディスクの未割り当て領域を組み合わせて作成される 1 つの大きな論理ボリュームです。ストライプボリュームは、データを複数のハードディスクにストライプ化する RAID-0 を使用します。分散して書き込みを行うのでアクセス速度が少し速くなります。ハードディスクが故障した場合、データを復旧することはできません。

●スパンボリューム

スパンボリュームとは、複数のハードディスク上の未割り当て領域を結合して 1 つの論理ボリュームを生成したものです。これにより、複数のハードディスクを持つシステム全ての領域およびドライブ文字をより有効に使用できるようになります。ハードディスクが故障した場合、データを復旧することはできません。

●シンプルボリューム

TeraStation に内蔵されているハードディスクを個々のドライブとして使用します。ハードディスクが故障した場合、故障したドライブのデータは復旧することはできません。

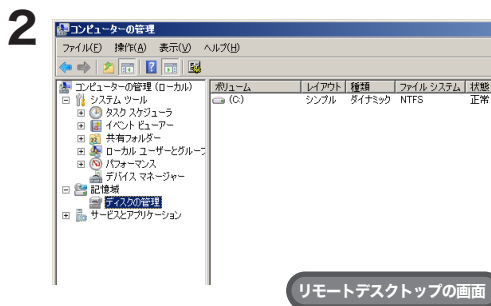
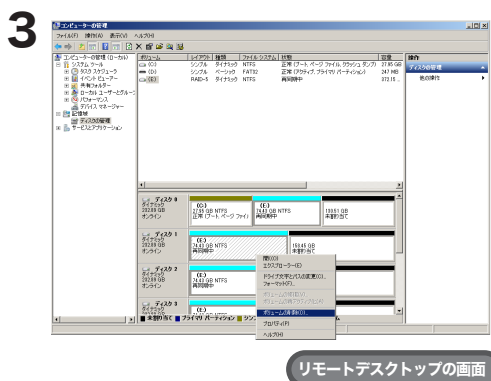
ボリュームの削除

ボリュームを作成するには、TeraStation のハードディスク内に未割り当て領域がある必要があります。未割り当て領域がないときは、既存のボリュームを削除してください。

1 [スタート]-[すべてのプログラム]-[管理ツール]-[コンピューターの管理] をクリックします。

2

[ディスクの管理] をクリックします。

3

削除するボリュームを右クリックし、表示されたメニューから [ボリュームの削除] を選択します。

NOTE: ハードディスクの使用モードを変更すると、ハードディスク内のデータは全て消去されます。変更する前に大切なデータのバックアップを必ずとってください。

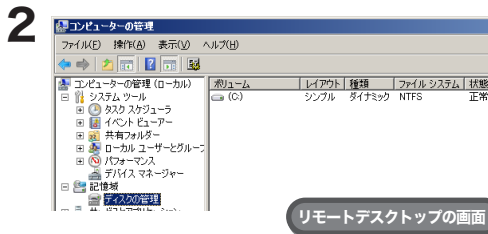
4 以降は画面の指示にしたがって操作します。

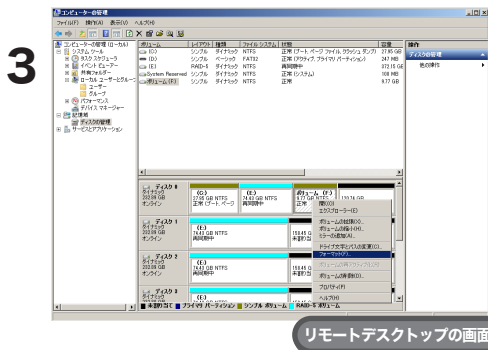
以上でボリュームの削除は完了しました。

ボリュームのフォーマット

ボリュームをフォーマットするときは次の手順で行ってください。

1 [スタート]-[すべてのプログラム]-[管理ツール]-[コンピューターの管理(ローカル)]をクリックします。

2

[記憶域]-[ディスクの管理]をクリックします。

3

フォーマットをするボリュームを右クリックし、表示されたメニューから[フォーマット]を選択します。

NOTE: フォーマットを実行すると、ハードディスク内のデータは全て消去されます。変更する前に大切なデータのバックアップを必ずとってください。

4 以降は画面の指示にしたがって操作します。

以上でボリュームのフォーマットは完了しました。

RAID5 ボリューム

1 [スタート]-[すべてのプログラム]-[BUFFALO]-[RAID Builder]-[RAID Builder の起動] をクリックします。

2

1 [RAID を作成する] を選択します。

2 [RAID 構成] から [RAID5 ボリューム] を選択します。

3 ドライブを選択します (3 台以上)。

4 [OK] をクリックします。

NOTE： RAID 再同期中はファイル転送速度が数時間 (1TB あたり約 5 時間かかります) 低下します。

3 以降は画面の指示にしたがって操作します。

NOTE： 4 台の場合の使用容量の例は、次の通りです。

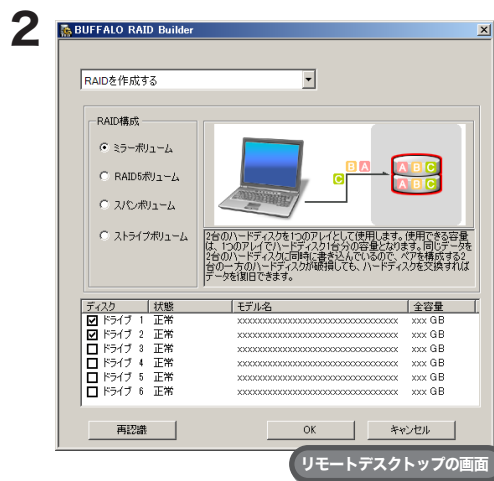
例）ディスク 1:50GB 余り / ディスク 2:80GB 余り / ディスク 3:58GB 余り / ディスク 4:100GB 余り
RAID5 ボリュームで使用できる容量は、(50GB × 4 台) × 3/4 = 150GB となります。

RAID5 を構成するハードディスクの台数を n 台とした場合、使用できる容量は (n-1)/n となります。

以上で RAID5 ボリュームの設定が完了しました。
続いて P.33 の手順を参照して共有フォルダーを作成してください。

ミラーボリューム

1 [スタート]-[すべてのプログラム]-[BUFFALO]-[RAID Builder]-[RAID Builder の起動] をクリックします。

2

1 [RAID を作成する] を選択します。

2 [RAID 構成] から [ミラーボリューム] を選択します。

3 ドライブを選択します (2 台)。

4 [OK] をクリックします。

NOTE: RAID 再同期中はファイル転送速度が数時間 (1TB あたり約 5 時間かかります) 低下します。

3 以降は画面の指示にしたがって操作します。

NOTE: 使用容量の例は次の通りです。

例）ディスク 3:58GB 余り / ディスク 4:100GB 余り
ミラーボリュームで使用できる容量は、58GB となります。

以上でミラーボリュームの設定が完了しました。
続いて P.33 の手順を参照して共有フォルダーを作成してください。

ストライプボリューム

1 [スタート]-[すべてのプログラム]-[BUFFALO]-[RAID Builder]-[RAID Builder の起動] をクリックします。

2

1 [RAID を作成する] を選択します。

2 [RAID 構成] から [ストライプボリューム] を選択します。

3 ドライブを選択します (2 台以上)。

4 [OK] をクリックします。

3 以降は画面の指示にしたがって操作します。

NOTE： 使用容量の例は次の通りです。

例）ディスク 1:50GB 余り / ディスク 2:80GB 余り / ディスク 3:58GB 余り / ディスク 4:100GB 余り
ストライプボリュームで使用できる容量は、50GB × 4 台＝ 200GB となります。

以上でストライプボリュームの設定が完了しました。
続いて P.33 の手順を参照して共有フォルダーを作成してください。

スパンボリューム

1 [スタート]-[すべてのプログラム]-[BUFFALO]-[RAID Builder]-[RAID Builder の起動] をクリックします。

2

1 [RAID を作成する] を選択します。

2 [RAID 構成] から [スパンボリューム] を選択します。

3 ドライブを選択します (2 台以上)。

4 [OK] をクリックします。

3 以降は画面の指示にしたがって操作します。

NOTE： 使用容量の例は次の通りです。

例）ディスク 1:50GB 余り / ディスク 2:80GB 余り / ディスク 3:58GB 余り / ディスク 4:100GB 余り
スパンボリュームで使用できる容量は、50GB+80GB+58GB+100GB = 288GB となります。

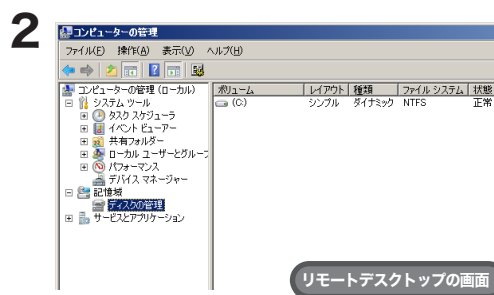
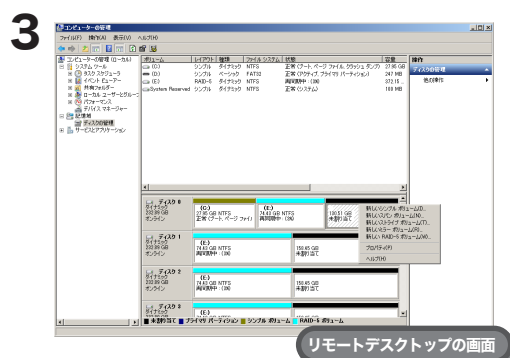
以上でスパンボリュームの設定が完了しました。
続いて P.33 の手順を参照して共有フォルダーを作成してください。

シンプルボリューム

1 [スタート]-[すべてのプログラム]-[管理ツール]-[コンピューターの管理] をクリックします。

2

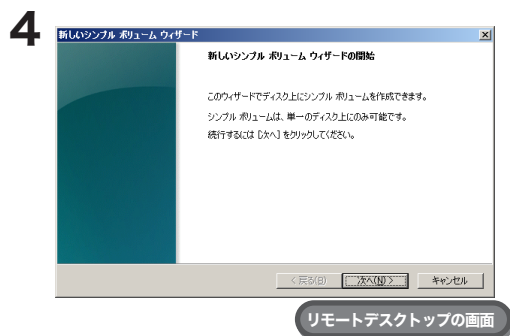
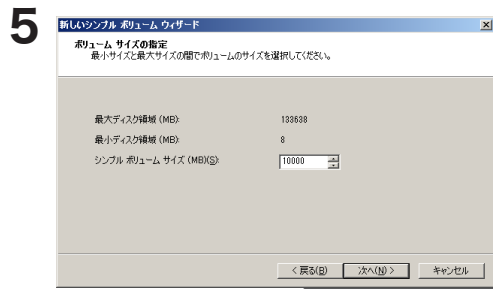
[ディスクの管理] をクリックします。

3

未割り当て領域を右クリックし、表示されたメニューから [新しいシンプルボリューム] を選択します。

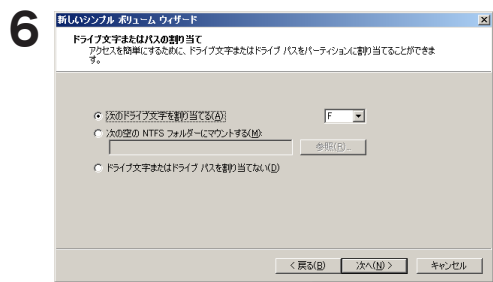
NOTE: ハードディスクの使用モードを変更すると、ハードディスク内のデータは全て消去されます。変更する前に大切なデータのバックアップを必ずとってください。

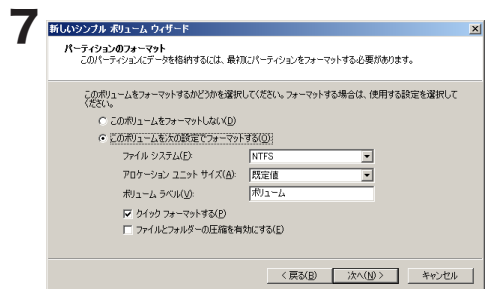
4

[次へ] をクリックします。

5

新しいシンプル ボリューム ウィザード
ボリューム サイズの指定
最小サイズと最大サイズの間でボリュームのサイズを選択してください。
最大ディスク領域 (MB): 133638
最小ディスク領域 (MB): 8
シンプル ボリューム サイズ (MB)(S): 10000
< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル
リモートデスクトップの画面

確保する用量を入力し、[次へ] をクリックします。

6

[次のドライブ文字を割り当てる] を選択し、[次へ] をクリックします。

7

[このボリュームを次の設定でフォーマットする]、[クイックフォーマットする] を選択し、[次へ] をクリックします。

8 **以降は画面の指示にしたがって操作します。**

以上でシンプルボリュームの設定が完了しました。
続いて P.33 の手順を参照して共有フォルダーを作成してください。

Chapter 5
データをバックアップする

NOTE:

TeraStation/LinkStation のフォルダーやファイルを本製品へバックアップ、または、レプリケーションする際は、以下の制限事項があります。

- バックアップ元 (レプリケーション元) の同一フォルダー内のフォルダー名やファイル名に大文字・小文字のみ異なる名称が使われている場合、Windows Storage Server では大文字と小文字は区別されず同じ名称として認識されバックアップに失敗します。
- バックアップ元 (レプリケーション元) のフォルダー名やファイル名に下記の記号や文字列が含まれると、バックアップに失敗します。

  < 使用禁止記号 >

  ¥ ＜ ＞ ： ” ／ ｜ ？ ＊

  < 使用禁止文字列 >

  CON、PRN、AUX、CLOCK$、NUL、COM0、COM1、COM2、COM3、COM4、COM5、COM6、COM7、COM8、COM9、LPT0、LPT1、LPT2、LPT3、LPT4、LPT5、LPT6、LPT7、LPT8、LPT9

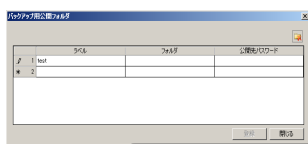
TeraStation のデータをバックアップする

TeraStation のフォルダー単位でバックアップを行うことができます。

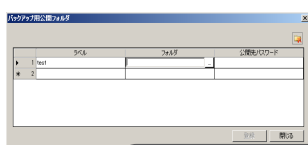
●本製品のフォルダーにバックアップするときの設定

本製品内のフォルダーをバックアップ先とする場合、次の手順で設定してください。他の TeraStation/LinkStation をバックアップ先とするときは、各製品のマニュアルを参照してバックアップ先の設定を行ってください。

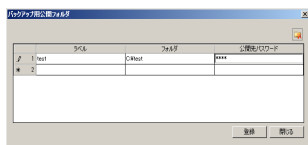
1 Windows Storage Server 上で [スタート]-[すべてのプログラム]-[BUFFALO]-[バックアップ＆レプリケーション]-[バックアップ用公開フォルダーの設定] をクリックします。

2

[ラベル] の欄をダブルクリックし、ラベル名を入力します。

バックアップ先として指定する際にこちらのラベル名が表示されます。

3

[フォルダー] の欄をクリックし、表示された ... をクリックします。

4 バックアップ先にしたいフォルダーを選択し、[OK] をクリックします。

5

[登録] をクリックします。

NOTE: ネットワーク経由で他の TeraStation からのバックアップ先にするときは、[公開先パスワード] でパスワードを設定することもできます。パスワードを設定した場合、レプリケーション先の候補として検出されません。パスワードを設定したくないときは何も入力しないでください。

以上でバックアップ先の設定は完了です。
バックアップ設定のバックアップ先として上記フォルダーを指定することができます。

●他の TeraStation/LinkStation の共有フォルダーにバックアップするときの設定

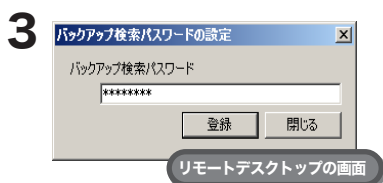
バックアップ公開用 (検索用) パスワードを設定している場合

バックアップ先の共有フォルダーにパスワードを設定している場合、パスワードを入力しないとバックアップ先として選択することはできません。バックアップを行う前に次の手順でパスワードを入力してください。

1 Windows Storage Server 上で [スタート]-[すべてのプログラム]-[BUFFALO]-[バックアップ＆レプリケーション]-[バックアップ＆レプリケーション設定] をクリックします。

2

[バックアップ検索パスワード] の [設定変更] をクリックします。

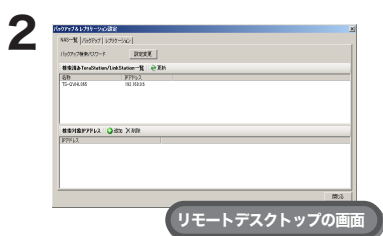
3

バックアップ先フォルダーに設定した公開先パスワードを入力し、[登録] をクリックします。

検索時に見つかるバックアップ先フォルダーは、パスワードが未設定のフォルダーと、パスワードが一致したフォルダーです。

ルーターを越えた TeraStation や VPN で接続されたネットワークの TeraStation にバックアップしたい場合

ルーターを越えた TeraStation や VPN で接続されたネットワークの TeraStation にバックアップするときは、バックアップを行う前に次の手順で TeraStation の IP アドレスを入力してください。

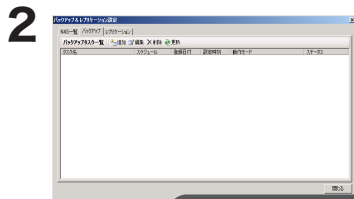
1 Windows Storage Server 上で [スタート]-[すべてのプログラム]-[BUFFALO]-[バックアップ＆レプリケーション]-[バックアップ＆レプリケーション設定] をクリックします。

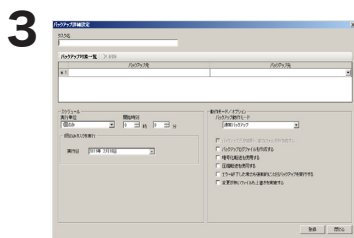
2

1. [検索対象 IP アドレス] の [追加] をクリックします。
2. [検索対象 IP アドレス] を入力し、[登録] をクリックします。

以下の条件の方は上記の設定は必要ありません。
- バックアップ先に他の TeraStation を使用しない
- バックアップ先の TeraStation に検索バックアップ公開用パスワードを設定していない
- バックアップ先にルーターを越えた TeraStation や VPN で接続されたネットワークの TeraStation を使用しない

●バックアップを設定する

1 Windows Storage Server 上で [スタート]-[すべてのプログラム]-[BUFFALO]-[バックアップ＆レプリケーション]-[バックアップ＆レプリケーション設定] をクリックします。

2

[バックアップ] タブ→ [追加] の順にクリックします。

NOTE: [更新] をクリックすると表示を最新の情報に更新します。

3

1. [タスク名] を入力します
2. バックアップ元の欄をクリックし、表示された [...] をクリックします。表示された画面でバックアップ元フォルダーを登録します。

   NOTE:バックアップ元にネットワークパス、およびネットワークドライブを指定することはできません。
3. バックアップ先の欄の [▼] をクリックし、表示された一覧からバックアップ先のフォルダーを選択します。
4. スケジュールを選択します。スケジュールは、日単位、週単位、月単位、1 回のみ、今すぐ実行から選択することができます。
5. バックアップモード / オプションを選択します。
6. [登録] をクリックします。

NOTE:バックアップ動作モードについて
バックアップ動作モードでは次のモードを選択できます。

通常バックアップ
バックアップ元からバックアップ先へ全てのファイルがバックアップされます。

上書きバックアップ（増分バックアップ）
1 度目に通常バックアップと同様に全てのファイルをバックアップします。2 回目以降にバックアップ元に A ファイル追加、B ファイル削除されていた場合、バックアップ先へ A ファイルを追加し、B ファイルは削除しません。バックアップ先の容量は削除されないファイル分増加します。

上書きバックアップ（差分バックアップ）
1 度目に通常バックアップと同様に全てのファイルをバックアップします。2 回目以降にバックアップ元に A ファイル追加、B ファイル削除されていた場合、バックアップ先へ A ファイルを追加し、B ファイルは削除されます。バックアップ元とバックアップ先の容量は同じとなります。

NOTE:バックアップ実行中、Windows Storage Server 上に「taskeng.exe」画面が表示されます (バックアップ完了後に自動的に閉じます)。
「taskeng.exe」画面はバックアップが完了するまで絶対に閉じないでください。
閉じた場合バックアップに失敗します。

NOTE:オプションについて

バックアップ動作モードのオプションでは次の設定をできます。

バックアップ元が識別可能なフォルダーを作成する

バックアップ元が識別可能なフォルダーを作成します。バックアップ動作モードで選択した項目によって動作が大きく異なります。

バックアップログファイルを作成する

バックアップのログファイルを作成します。

暗号化転送を使用する

バックアップする際データを暗号化して転送するかしないか選択します。

※暗号化を有効にするとスループットが低下します。

圧縮転送を使用する

バックアップする際データを圧縮してから転送するかしないか選択します。

※ネットワーク経由でバックアップをするときに、ネットワーク帯域がせまい場合に、圧縮転送すると転送速度が向上することがあります（データを 1 つのアーカイブにしてバックアップするわけではありません）。

※バックアップ先が USB ハードディスクの場合、選択しないでください。

エラー終了した場合も強制的に次回バックアップを実行する

エラー終了していても、次回のバックアップを実行します。

変更がないファイルも上書きを実施する

変更されていないファイルも上書きします。

NOTE:・バックアップ対象一覧からバックアップタスクを選択して、[削除] をクリックすると設定を削除します。

・ファイルおよびフォルダーのアクセス権限はバックアップ先には保持されません。

NOTE:バックアップの結果確認方法

バックアップの実行結果は、バックアップログファイルから確認することができます。

バックアップログファイルはバックアップ設定時に、[バックアップログを作成する] をクリックし、チェックマークをつけてください。

バックアップが完了するとバックアップ元として設定をしたフォルダーに、[タスク名][実行日時].log としてバックアップログファイルが作成されます。

バックアップログファイルは、お使いのテキスト編集ソフトウェアでご確認ください (Windows のメモ帳では表示できませんのでご注意ください)。

NOTE:以下のファイルおよびフォルダーはバックアップできません。

- ファイル名の先頭が「._」(ドットアンダーバー) で始まるファイル
- フォルダー名の先頭が「._」(ドットアンダーバー) で始まるフォルダー
- .AppleDesktop/
- Network Trash Folder/
- TheVolumeSeHngsFolder/
- .DS_Store/
- .AppleDouble/
- .AppleDB/

以上でバックアップの設定は完了です。

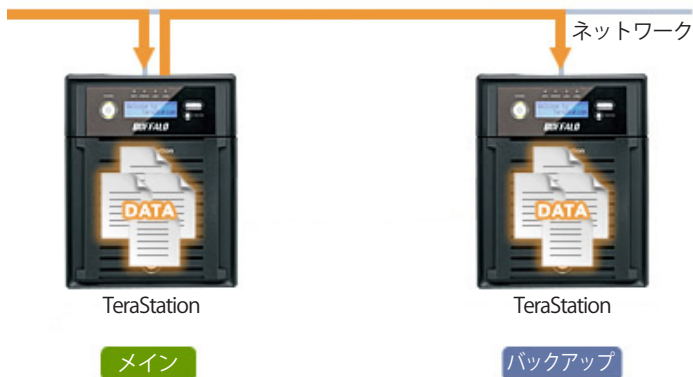
レプリケーション機能を使用する

TeraStation には LAN ポートが 2 つ搭載されています。1 つはネットワークに、もう 1 つは予備の TeraStation に接続し、レプリケーション機能を設定すれば、TeraStation に書き込んだデータは、ファイル単位で予備の TeraStation にも書き込まれます。

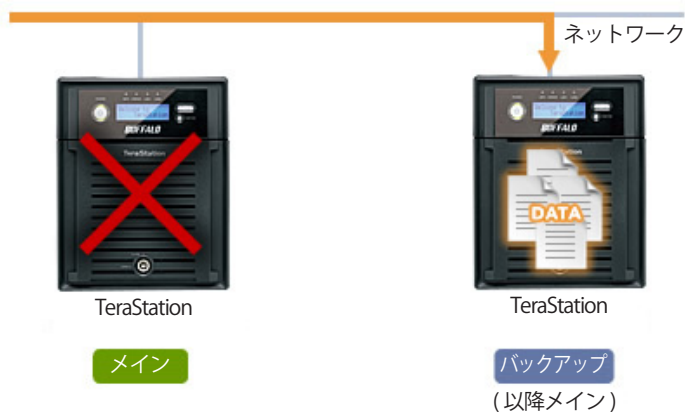
万が一、1 台が故障しても、予備の TeraStation に LAN ケーブルをつなぎかえることで、信頼性が高く、可用性に優れたシステムを構築できます。

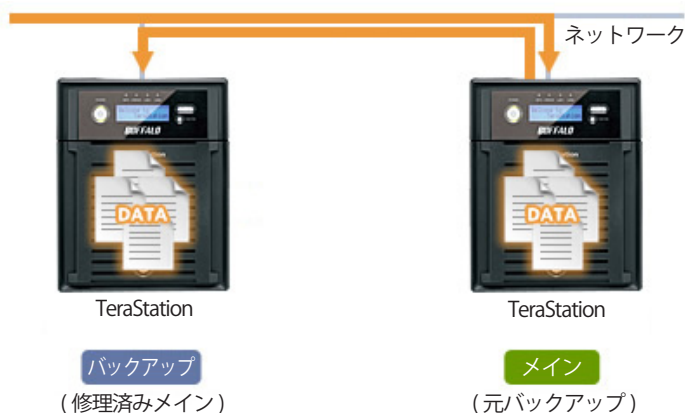
通常時通常（レプリケーション状態）

TeraStation には LAN ポートが 2 つ搭載されています。1 つはネットワークに、もう 1 つはバックアップの TeraStation につなぎます。メインに書き込んだデータは、ファイル単位でバックアップに書き込まれます（ファイルの更新は、メインの TeraStation 上での保存・削除をトリガーに行われます）。

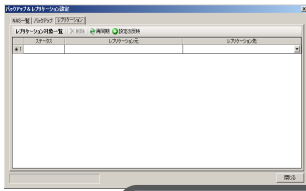
※バックアップの指定は共有フォルダーごとに可能です。指定できる共有フォルダーの上限は、32 フォルダーまでとなります。

メイン故障発生時

バックアップ側の TeraStation の Web 設定画面を開いて設定変更することで、メインとして使用できます。

※ただし、ファイル以外の設定情報などはレプリケーションの対象外です。

レプリケーション再構築

修理した TeraStation は、バックアップとしてメインの LAN ポートにつなぎます。再度、レプリケーション設定を行うことで、メインとバックアップのデータの整合性をとり、レプリケーション状態になります。

レプリケーション機能の設定手順は次のとおりです。

1 Windows Storage Server 上で [スタート]-[すべてのプログラム]-[BUFFALO]-[バックアップ＆レプリケーション]-[バックアップ＆レプリケーション設定] をクリックします。

2 [レプリケーション] タブをクリックします。

3 レプリケーション元の欄をクリックし、表示されたを [...] クリックします。表示された画面でレプリケーション元フォルダーを登録します。

NOTE: ・TeraStation の共有フォルダーをレプリケーション元に設定した場合、NFS からのファイルアクセスではレプリケーションが動作しない場合があります。動作させる場合は、次の操作を実行してください (ただし、製品パフォーマンスが低下することがあります)。

1.Windows Storage Server 上で [ファイル名を指定して実行] から「regedit」と入力し、[Enter] キーを押します。
2.HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\NfsServer\Parameters を表示します。
3.HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\NfsServer\Parameters に DWORD として「FCCompat」を作成します。
4.「FCCompat」の値を 1 に設定します。
5.TeraStation を再起動します。

・レプリケーション元にネットワークパス、およびネットワークドライブを指定することはできません。

4 レプリケーション先の欄の [▼] をクリックし、表示された一覧からレプリケーション先のフォルダーを選択します。

NOTE: ・レプリケーション機能に対応した TeraStation の共有フォルダーのみ選択できます。対応機器については当社ホームページ (buffalo.jp) をご参照ください。
・レプリケーション先のフォルダーは、あらかじめ P.18「●本製品のフォルダーにバックアップするときの設定」の手順でバックアップ先として設定してください。
・バックアップ公開パスワードが設定された共有フォルダーは、レプリケーション先に選択することができません。
・レプリケーション先のフォルダーにはレプリケーション元のデータが差分上書きコピーされます。レプリケーション元にないデータは消去されますのでご注意ください。
・ファイルおよびフォルダーのアクセス権限はレプリケーション先には保持されません。

5 [設定の反映] をクリックします。パスワードの入力画面が表示されたときは、バックアップ先フォルダーに設定したパスワードを入力してください。

NOTE: ・レプリケーションの設定を選択して、[削除] をクリックすると設定を削除します。
・[再同期] をクリックするとレプリケーション先のフォルダーにレプリケーション元のデータを差分上書きコピーします。

6 [閉じる] をクリックします。

以上でレプリケーション機能の設定は完了です。

NOTE:以下のファイルおよびフォルダーはレプリケーションできません。

- ファイル名の先頭が「._」(ドットアンダーバー) で始まるファイル
- フォルダー名の先頭が「._」(ドットアンダーバー) で始まるフォルダー
- .AppleDesktop/
- Network Trash Folder/
- TheVolumeSeHngsFolder/
- .DS_Store/
- .AppleDouble/
- .AppleDB/

パソコンのデータをバックアップする (Windows)

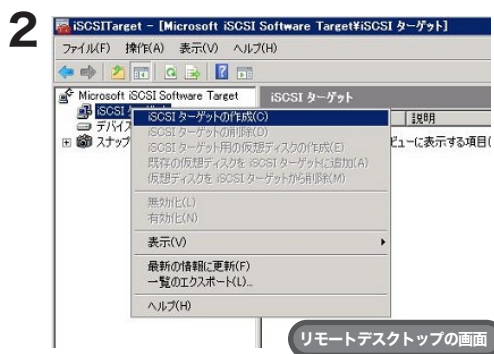
パソコンのデータを TeraStation にバックアップするときは､付属の「簡単バックアップ」を使います。簡単バックアップは、付属の USB メモリー (TeraNavigator) からインストールすることができます。

使いかたについてはインストール後に、[スタート]-[(すべての) プログラム]-[BUFFALO]-[簡単バックアップ]-[簡単バックアップ マニュアル] をご参照ください。

Chapter 6
iSCSI ターゲットを作成する

iSCSI ターゲットの作成

1 [スタート]-[すべてのプログラム]-[管理ツール]-[Microsoft iSCSI Software Target] の順にクリックします。

2

[iSCSI ターゲット] を右クリックし、表示されたメニューから [iSCSI ターゲットの作成] をクリックします。

3 **「iSCSI ターゲットの作成ウィザードへようこそ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**

4 **任意の iSCSI ターゲット名を入力し、[次へ] をクリックします。**

5 **iSCSI イニシエーターの IQN を指定し、[次へ] をクリックします。**

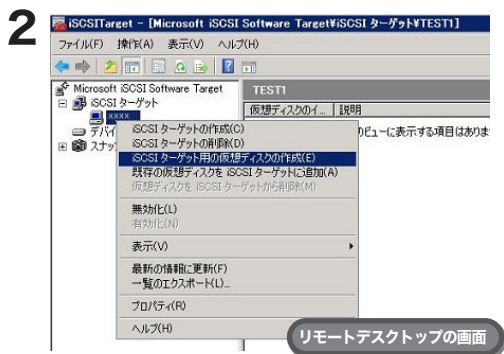
iSCSI イニシエーターの IQN は、クライアント側のパソコンで [スタート]-[すべてのプログラム]-[管理ツール]-[iSCSI イニシエータ] を起動した画面の「イニシエータ名」に表示されています。

6 **「iSCSI ターゲットの作成ウィザードの完了」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**

以上で iSCSI ターゲットの作成は完了です。
続いて仮想ディスクを作成してください。

仮想ディスクの作成

1 [スタート]-[すべてのプログラム]-[管理ツール]-[Microsoft iSCSI Software Target] の順にクリックします。

2

作成した iSCSI ターゲットを右クリックし、表示されたメニューから [iSCSI ターゲット用の仮想ディスクの作成] をクリックします。

3「仮想ディスクの作成ウィザードへようこそ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。

4 任意の仮想ディスクとして作成するファイル (.vhd) を入力し、[次へ] をクリックします。

5 仮想ディスクのサイズを入力し、[次へ] をクリックします。

6 仮想ディスクの説明を入力し、[次へ] をクリックします。

7「仮想ディスクの作成ウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。

8 [デバイス] をクリックし、右側のウインドウで作成した仮想ディスクを右クリックします。

9 [ディスクアクセス]-[読み取り / 書き込みマウント] をクリックします。

10 [OK] をクリックします。

これ以降はクライアント側のパソコンでの操作となります。

11 クライアント側のイニシエーターから、ターゲットを選択して [接続] をクリックします。

12 [OK] をクリックします。

13 ディスクの管理にてディスクをフォーマットします。

以上で iSCSI ターゲット用の仮想ディスクの作成は完了です。

作成した iSCSI ターゲットは、ネットワーク上の他のサーバーから iSCSI イニシエーターを使用して接続することができます。iSCSI イニシエーターの使い方については、OS のヘルプをご参照ください。

Chapter 7
各種設定

日時の設定

Windows Storage Server の時計を合わせます。

1

Windows Storage Server のタスクトレイに表示されている時刻をクリックします。

2

[日付と時刻の設定の変更] → [日付と時刻の変更] の順にクリックし、日付と時刻に現在の日時を選択します。

NOTE : [インターネット時刻] タブをクリックし、[自動的にインターネット時刻サーバーと同期する] を選択すると自動で時刻を取得することができます

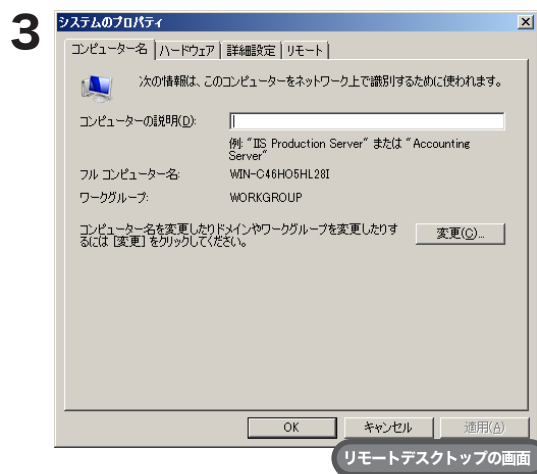
以上で日時の設定は完了です。

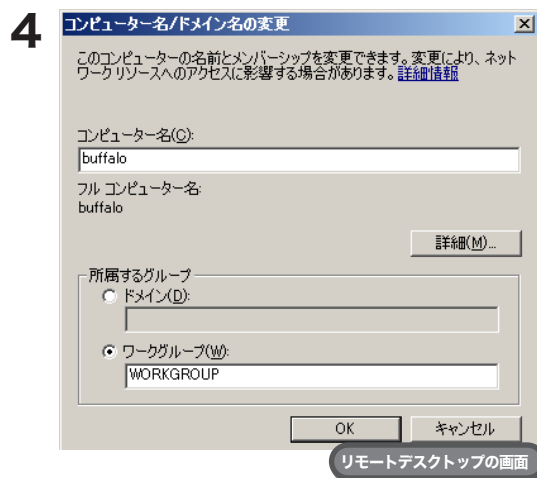
サーバー名・ワークグループ / ドメインの変更

TeraStation のサーバー名・ワークグループ / ドメインの変更は次のように行ってください。

1 [スタート]-[コンピューター] を右クリックし、表示されたメニューから [プロパティ] を選択します。

2 [コンピューター名、ドメインおよびワークグループ設定] の [設定の変更] をクリックします。

3

[コンピューター名] → [変更] の順にクリックします。

4

コンピューター名、ワークグループ名またはドメイン名を入力し、[OK] をクリックします。

NOTE： コンピューター名を 16 文字以上に設定した場合は、TeraStation 名は 16 文字までの表示になります (17 文字目以降は表示されません)。

以上でサーバー名・ワークグループ / ドメインの変更は完了です。

パスワードの変更

TeraStation の管理者パスワードは、セキュリティーのため出荷時設定から変更することをおすすめします。

ログオンしているアカウントのパスワードの変更

1 [コントロールパネル] → [ユーザーアカウント] → [個人用パスワードの変更] の順にクリックします。

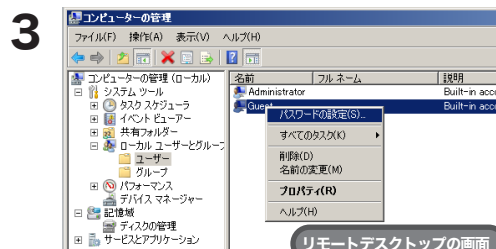
2 [現在のパスワード] に「password」、[新しいパスワード] および [新しいパスワードの確認] に任意のパスワードを入力し、[パスワードの変更] をクリックします。

以上でパスワードの変更は完了です。

ログオンしているアカウント以外のパスワードの変更

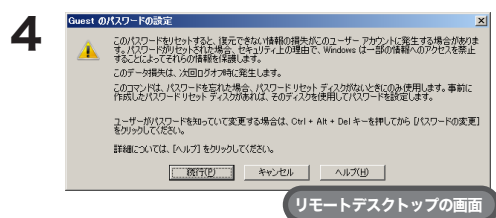
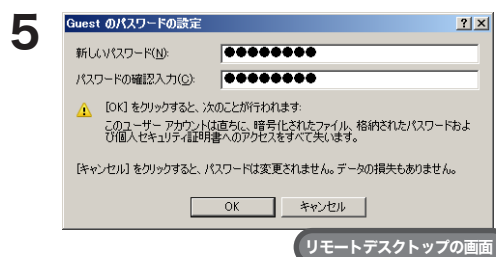
1 [スタート]-[すべてのプログラム]-[管理ツール]-[コンピューターの管理] をクリックします。

2 [ローカルユーザーとグループ]-[ユーザー] をクリックします。

3

パスワードを変更したいユーザーを右クリックし、表示されたメニューから [パスワードの設定] をクリックします。

4

[続行] をクリックします。

5

[新しいパスワード] [パスワードの確認入力] を入力し、[OK] をクリックします。

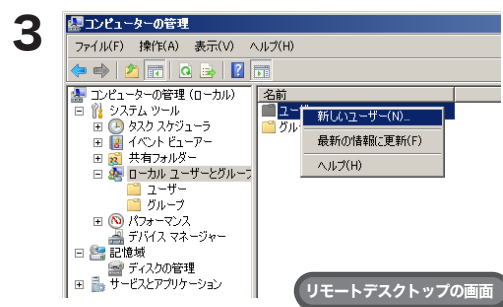
以上でパスワードの変更は完了です。

ユーザーの追加

ユーザーの追加は次のように行ってください。

1 [スタート]-[すべてのプログラム]-[管理ツール]-[コンピューターの管理] をクリックします。

2 [ローカルユーザーとグループ]-[ユーザー] をクリックします。

3

[ユーザー] を右クリックし、表示されたメニューから [新しいユーザー] をクリックします。
新しいユーザー画面が表示されます。

4

ユーザー名、パスワード等を入力し、[作成] をクリックします。

以上でユーザーの追加は完了です。

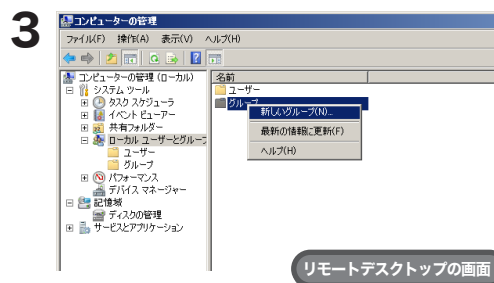
NOTE：Administrators グループに属していないアカウントは、リモートデスクトップで接続することができません。

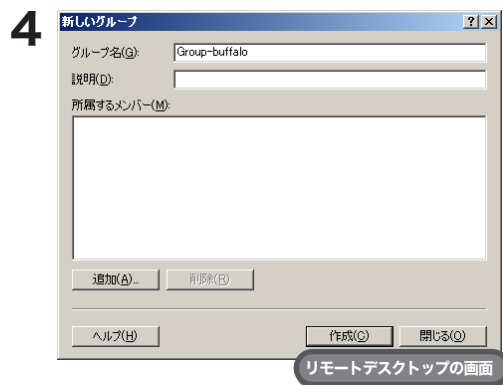
グループの追加

グループの追加は次のように行ってください。

1 [スタート]-[すべてのプログラム]-[管理ツール]-[コンピューターの管理(ローカル)]をクリックします。

2 [ローカルユーザーとグループ]-[グループ]をクリックします。

3

[グループ]を右クリックし、表示されたメニューから[新しいグループ]をクリックします。
新しいグループ画面が表示されます。

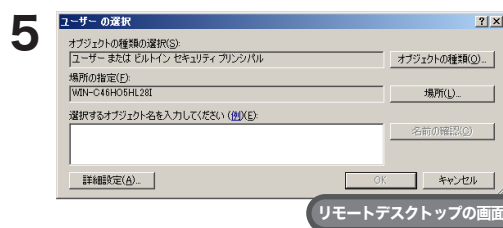
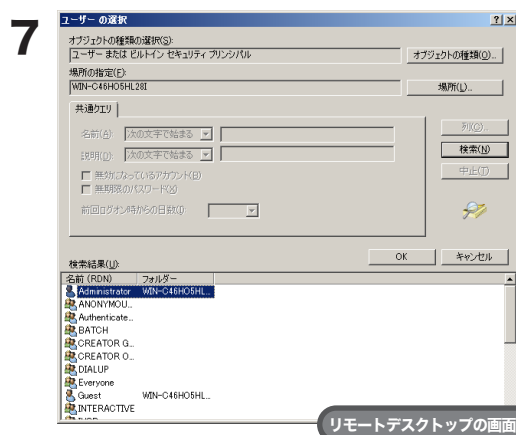
4

グループ名、説明を入力し、[追加]をクリックします。

5

[詳細設定]をクリックします。

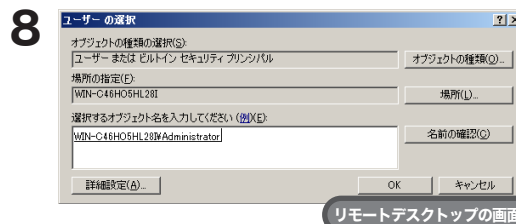
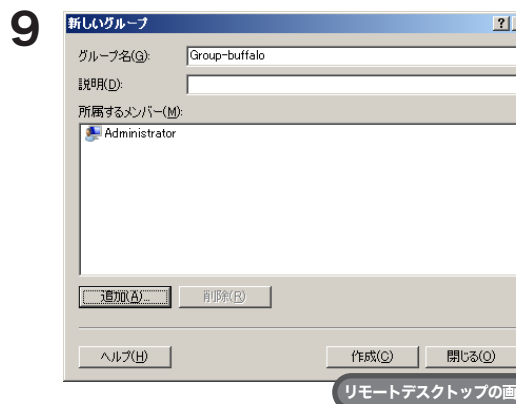
6

[検索] をクリックします。

7

グループに登録するユーザーを選択し、[OK] をクリックします。

8

[OK] をクリックします。

9

[閉じる] をクリックします。

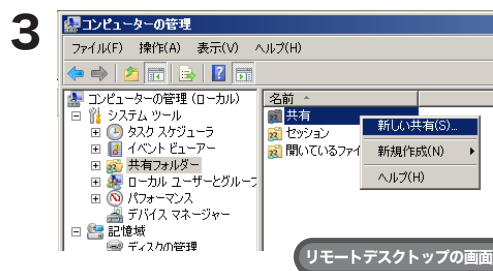
以上でグループの追加は完了です。

共有フォルダーの作成

初期設定では共有フォルダーが設定されていません。あらかじめ次の手順で共有フォルダーを作成します。

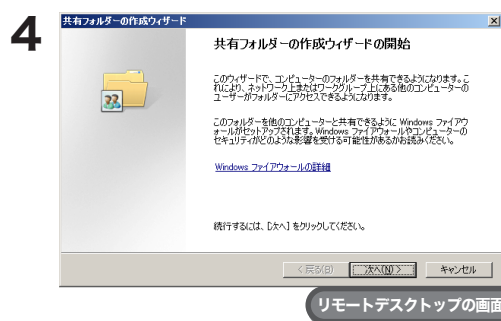
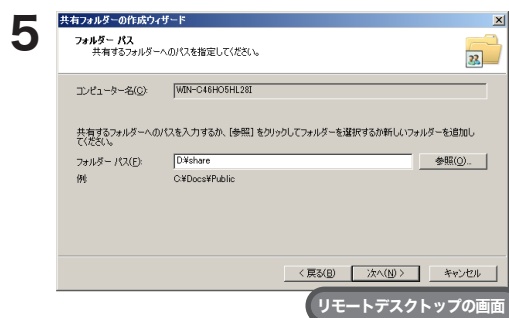
1 [スタート]-[すべてのプログラム]-[管理ツール]-[コンピューターの管理(ローカル)]をクリックします。

2 [共有フォルダー]をクリックします。

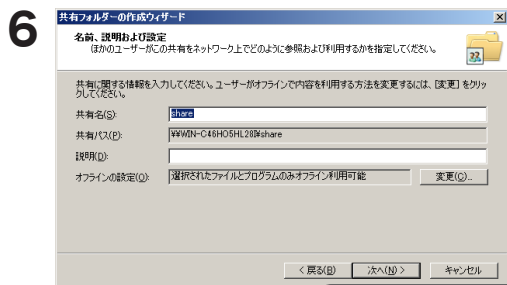
3

[共有]を右クリックし､表示されたメニューから[新しい共有]をクリックします。
[フォルダーの共有ウィザード]が表示されます。

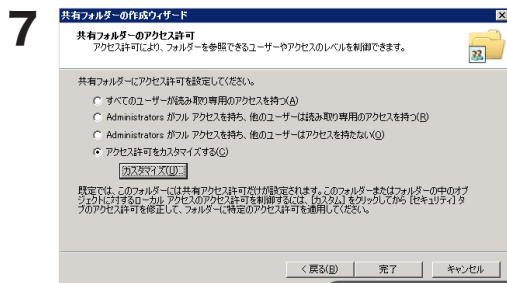
4

[次へ]をクリックします。

5

既存のフォルダーのパスまたは新しく作成するフォルダーのパスを入力し、[次へ]をクリックします。

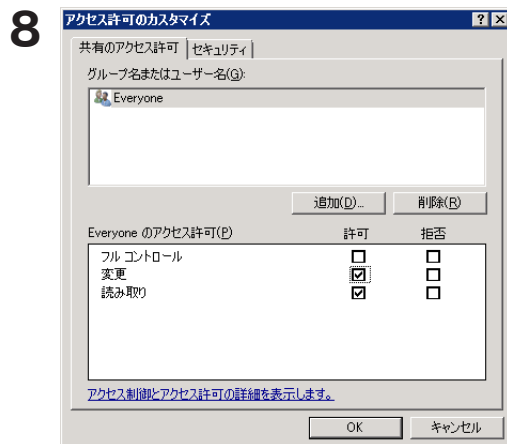
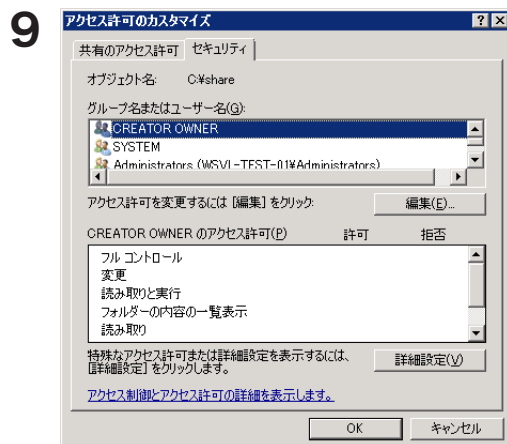
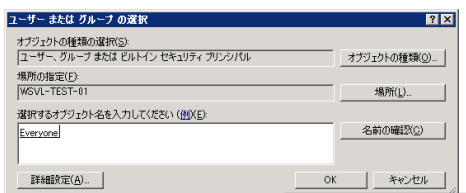
NOTE：「指定したパスが見つかりません。作成しますか？」と表示されたときは､[はい]をクリックしてください。

6

共有名と説明を入力し、[次へ] をクリックします。

7

[アクセス許可をカスタマイズする] → [カスタマイズ] の順にクリッ クします。

8

[Everyone] → [変更 (許可)] の順にクリックし、[変更 (許可)] にチェックマークをつけます。

9

[セキュリティ] タブ→ [編集] → [追加] の順にクリックします。

10 [選択するオブジェクト名を入力してください] に「Everyone」を入力し、[OK] をクリックします。

11

[Everyone] → [変更 (許可)] の順にクリックし、[変更 (許可)] にチェックマークをつけます。

12 [OK] → [OK] → [完了] の順にクリックします。

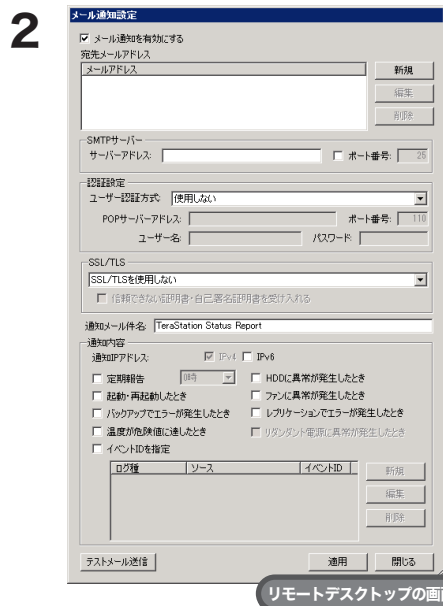
NOTE：
- ゲストアカウントを有効にする場合は、次の手順を行ってください。
  1. [コンピューターの管理] 内にある [ローカルユーザーとグループ (ローカル)] をクリックします。
  2. [ローカルユーザーとグループ (ローカル)]-[ユーザー] を選択し、[名前] から [Guest] をダブルクリックします。Guest のプロパティが表示されます。
  3. [全般] タブ -[アカウントを無効にする] をクリックし、チェックボックスのチェックマークを非表示にします。
  4. [OK] をクリックします。
- 共有フォルダーにアクセスできるようにするには、共有フォルダーのアクセス許可を設定する必要があります。
  共有フォルダーのアクセス許可は、共有フォルダーを右クリックし、表示されたメニューから [Properties]-[セキュリティ] をクリックしてください。
  [グループ名またはユーザー名] 一覧からアクセス許可を設定したいユーザーまたはグループの追加をしてください (グループやユーザーはあらかじめ作成しておく必要があります)。全てのユーザーからアクセスを許可する場合は Guest を追加し、Guest の「Administrators のアクセス許可」をフルコントロールに変更してください。

以上で共有フォルダーの作成は完了です。

メール通知設定

BUFFALOツールのメール通知設定では、TeraStationの設定を変更したときや異常が発生したとき、指定のメールアドレスにメッセージを送信するよう設定することができます。

1 [スタート]-[すべてのプログラム]-[BUFFALO]-[メール通知設定]-[メール通知設定]をクリックします。

2

1 [メール通知を有効にする]のチェックボックスをクリックし、チェックマークを表示させます。

2 宛先メールアドレスの[新規]をクリックし、送信先メールアドレスを入力します。最大5つのアドレスまで送信できます。

NOTE： 誤ったメールアドレスを入力しないようご注意ください。

3 SMTPサーバーアドレス、SMTPポート番号を入力します。

4 ユーザー認証方式（使用しない/pop before smtp/login(SMTP-AUTH)/cram-md5(SMTP-AUTH)）を選択し、ユーザー名、パスワードを入力します。

NOTE：
- pop before smtpを使用しているときは、POP3サーバーアドレス、POP3ポート番号を入力します。
- パスワードに ’(シングルクォーテーション)を使用することはできません。

5 保護された接続を使用する場合、その方式（SSL/TLS）を選択します。

6 通知メールの件名を入力します。

NOTE： 半角英数字にしてください。それ以外では文字化けすることがあります。

7 通知内容を選択します。

8 [適用]をクリックします。

以上でメール通知機能の設定は完了です。

NOTE：メール通知設定画面での設定項目は次のとおりです。

メール通知を有効にする	メール通知機能を使用する場合、チェックボックスをクリックし、チェックマークを表示させます。
宛先メールアドレス	[新規] をクリックすると新しいアドレスを登録します。アドレスを選択して [編集] をクリックするとアドレスを変更することができます。アドレスを選択して [削除] をクリックするとアドレスを削除します。 ※最大 5 つのアドレスを送信先として登録できます。
SMTP サーバー	[サーバーアドレス] には、SMTP サーバーアドレス（メールサーバーアドレス）を入力します。 [ポート番号] には SMTP ポート番号を入力します。 ※指定のない場合は標準のポート番号（25）が使用されます。また、ユーザー認証方式を「使用しない」や「pop before smtp」に設定した場合は、この欄に入力した番号にかかわらず、標準のポート番号（25）が使用されます。
ユーザー認証方式	ユーザー認証方式を、[POP before SMTP][LOGIN(SMTP-AUTH)][CRAM-MD5(SMTP-AUTH/CRAM-MD5)] から選択します。 [POP before SMTP] を選択した場合は、POP サーバーアドレス (メールサーバーアドレス)、ポート番号を入力します。 ※指定のない場合、標準ポート (110) が使用されます。 [ユーザー名] では認証で使用するユーザー名を入力します。 [パスワード] では認証で使用するパスワードを入力します。
SSL/TLS	ユーザー認証方式に「LOGIN(SMTP-AUTH)」「CRAM-MD5(SMTP-AUTH/CRAM-MD5)」を選択した際に、「SSL」「TLS」のどちらを用いるか指定します。
通知メール件名	送信するメールの件名を指定します。 ※半角文字にしてください。全角文字を使うと文字化けすることがあります。
通知 IP アドレス	[IPv6] にチェックを入れると通知メールに IPv6 を追加してメール送信します。
通知内容	メール通知で送信する内容を選択します。 [定期報告] では、選択した時刻に TeraStation の報告メールを送信します。 [HDD に異常が発生したとき] では、TeraStation のハードディスクに異常が発生した時にメールを送信します。 [起動・再起動したとき] では、システムの起動・再起動時にメールを送信します。 [ファンに異常が発生したとき] では、TeraStation のファンに異常が発生した時にメールを送信します。 [バックアップでエラーが発生したとき] では、TeraStation のバックアップでエラーが発生した時にメールを送信します。 [レプリケーションでエラー発生したとき] では、TeraStation のレプリケーションでエラー発生した時にメールを送信します。 [温度が危険値に達したとき] では､TeraStation 内部が高温 (異常値) になった時にメールを送信します。 [リダンダント電源に異常が発生したとき] は、本製品では非対応です。チェックすることはできません。 [イベント ID を指定] では、ログ種、ソース、イベント ID を指定することができます。 送信されるメールの内容には、対象ユーザーの情報は含まれません。
テストメール送信	設定した内容でテストメールを送信します。
適用	設定した内容を適用します。
閉じる	メール通知設定の画面を閉じます。

IP アドレスの変更

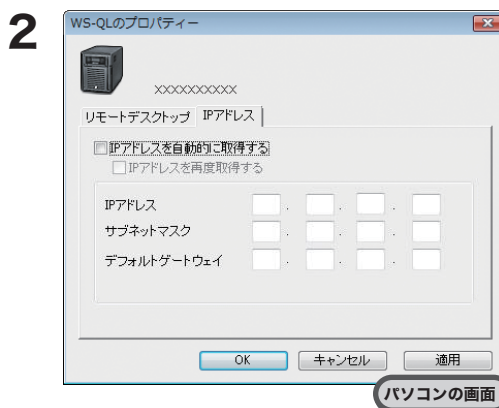
IP アドレスの変更は、次の手順でおこなうことができます。

NOTE：ドメイン環境で TeraStation を使用している場合、NAS Navigator2 で IP アドレスを変更することはできません。IP アドレスを変更するときは、ドメイン環境管理者がドメインサーバー側で変更してください。

1

TeraStation のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [プロパティ] をクリックします。
画面は Windows で実行した例です。

NOTE： Mac OS の場合は、コントロールキーを押しながら TeraStation のアイコンをクリックし、[機器設定画面を開く]-[IP アドレス] をクリックします。

2

1 [IP アドレス] タブをクリックします。
画面は Windows で実行した例です。

2 IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。
画面は Windows で実行した例です。

NOTE: 設定が分からない方は、[IP アドレスを自動的に取得する] をクリックしてチェックマークを表示させてください。

3 [OK] をクリックします。

NOTE: ユーザー名と管理者パスワードの入力を求められたときは、TeraStation のパスワード (出荷時設定では、ユーザー名：Administrator、パスワード：password となっています) を入力してください。

以上で IP アドレスの変更は完了です。

Chapter 8
NAS Navigator2 について

各メニュー解説

NAS Navigator2 を使えば、TeraStation の画面 (Windows Storage Server) をリモートデスクトップで表示したり、IP アドレスを変更したり、容量を簡単に知ることができます。

TeraNavigator でセットアップすると、NAS Navigator2 がインストールされます。

NAS Navigator2 は OS 起動時にタスクトレイに常駐します。

起動方法：デスクトップ画面にある［BUFFALO NAS Navigator2］アイコンをダブルクリックします。

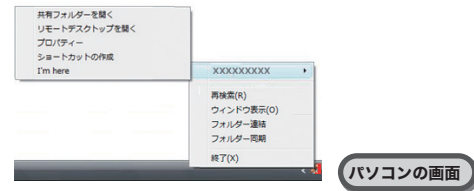
画面：

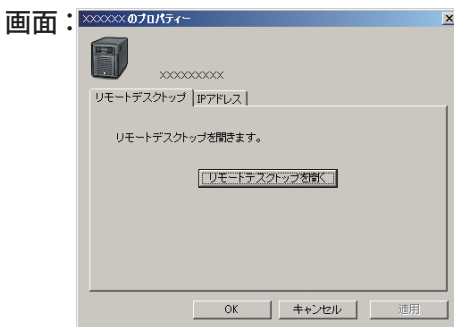
NOTE： iSCSI ボリュームの表示はできません。

項目		機能
メニュー	ネットワークドライブの割り当て (※)	本項目を本製品で選択することはできません (グレー色に表示されています)。
	ネットワークドライブの切断 (※)	本項目を本製品で選択することはできません (グレー色に表示されています)。
	すべての TeraStation/ LinkStation のドライブの割り当て	検索された全ての TeraStation 共有フォルダーをネットワークドライブに割り当てます。共有フォルダーを作成していないと選択できません。
	TeraStation/ LinkStation のショートカットの作成 (※)	TeraStation に共有フォルダーを作成している場合、ショートカットアイコンをデスクトップに作成します。
	常に常駐する	OS 起動時に NAS Navigator2 をタスクトレイに常駐させます。
	エラー情報を通知する	エラーが発生した際にタスクトレイの NAS Navigator2 アイコンからエラーメッセージを表示します。
	デフォルトブラウザーを使う	本製品では使用しません。
	フォルダー連結	TeraStation の共有フォルダーとパソコンのローカルドライブにあるフォルダーを連結して表示するための設定を行います。
	フォルダー同期	TeraStation の共有フォルダーとパソコンのローカルドライブにあるフォルダーを同期して表示するための設定を行います。
	プロパティー (※)	選択した TeraStation のプロパティー画面を開きます。
	閉じる	NAS Navigator2 の操作画面を閉じます。
表示	表示	[アイコン] : アイコンで簡単に表示します。 [詳細] : 名称、製品名、ワークグループ、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを表示します。
	並び替え順序	複数 TeraStation が見つかったときの表示順序を次から選択します。 名称、製品名、ワークグループ、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ
開く (※)		表示された TeraStation の共有フォルダーを開きます。
更新		TeraStation を再検索します。
フォルダー連結		TeraStation の共有フォルダーとパソコンのローカルドライブにあるフォルダーを連結して表示するための設定を行います。
フォルダー同期		TeraStation の共有フォルダーとパソコンのローカルドライブにあるフォルダーを同期して表示するための設定を行います。
I'm here(※)		クリックすると TeraStation からメロディーが鳴ります (対応していない製品では選択できません)。 ドメイン環境で TeraStation を使用している場合、本機能は使用できません。

※ **TeraStation** のアイコンをクリックしないと表示されません。

NAS Navigator2 を最小化した場合、タスクトレイに常駐している NAS Navigator2 のアイコンから次の操作ができます。

画面：

メニュー項目		機能
TeraStation 名	共有フォルダーを開く	TeraStation の共有フォルダーを開きます。
	リモートデスクトップを開く	リモートデスクトップで Windows Storage Server の画面を表示します。
	プロパティー	選択した TeraStation のプロパティー画面を開きます。
	ショートカットの作成	検索された TeraStation の共有フォルダー（share）へのショートカットアイコンをデスクトップに作成します。
	I'm here	TeraStation からメロディーが鳴ります (対応していない製品では選択できません)。
再検索		TeraStation を再検索します。
ウィンドウ表示		NAS Navigator2 の操作画面を表示します。
フォルダー連結		TeraStation の共有フォルダーとパソコンのローカルドライブにあるフォルダーを連結して表示するための設定を行います。
フォルダー同期		TeraStation の共有フォルダーとパソコンのローカルドライブにあるフォルダーを同期して表示するための設定を行います。
終了		NAS Navigator2 を終了します。

TeraStation のプロパティー画面では、次の操作ができます。

画面：

メニュー項目	機能
リモートデスクトップ	[リモートデスクトップを開く] をクリックすると TeraStation の画面 (Windows Storage Server) をリモートデスクトップで表示します。
IP アドレス	[IP アドレスを自動的に取得する] にチェックを入れると IP アドレスを DHCP サーバーから自動的に割り当てられるようにします。ネットワーク内に DHCP サーバーが無いときは、この機能は使用できません。 [IP アドレスを再取得する] にチェックを入れると IP アドレスを DHCP サーバーから再度取得します。 IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを手動で固定入力することもできます。

フォルダー連結機能

<フォルダー連結機能とは>

フォルダー連結機能では、TeraStation の共有フォルダーへのショートカットをデスクトップやマイドキュメント内のローカルフォルダーに登録することができます。

フォルダー機能を使用するには、次の手順で設定します。

1 **デスクトップの [BUFFALO NAS Navigator2] アイコンをダブルクリックします。**

NAS Navigator2 が起動します。

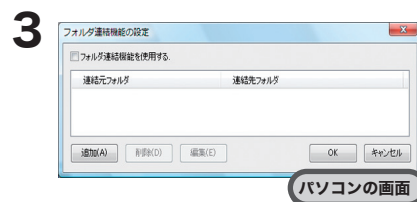
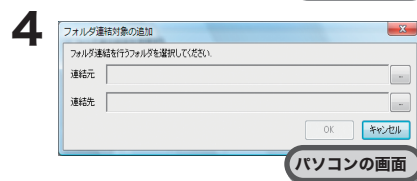
2

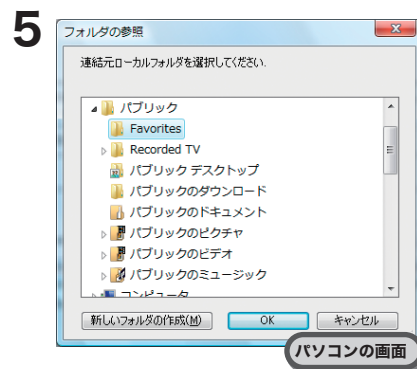
[フォルダー連結] をクリックします。

NOTE: Windows 8/7/Vista/XP/2000、Windows Server2003 以外の OS では、[フォルダー連結] は表示されません。

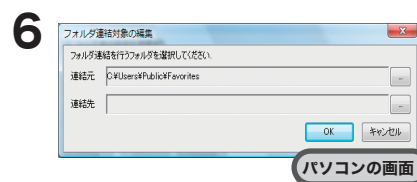
3

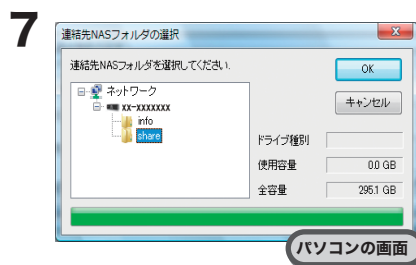
[追加] をクリックします。

4

[連結元] の右端にあるボタンをクリックします。

5

1 連結元にするパソコンのローカルドライブ内のフォルダーを選択します。

2 [OK] をクリックします。

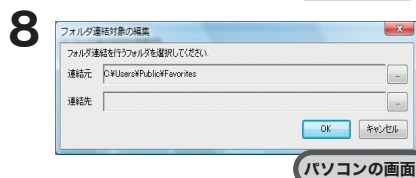
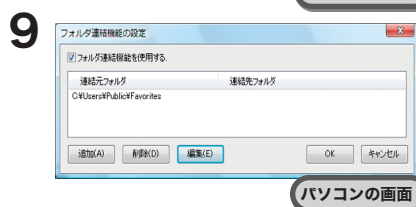
6

[連結先] の右端にあるボタンをクリックします。

7

1 連結先にする TeraStation 内のフォルダーを選択します。

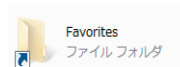
2 [OK] をクリックします。

8

[OK] をクリックします。

9

[OK] をクリックします。

以上でフォルダー連結機能の設定は完了です。

Windows Vista ではフォルダー連結したフォルダーは右図のように矢印が表示されます。解除した場合、矢印は消えます。

NOTE:
- フォルダー連結設定できる数は最大 10 個です。
- 1 つの連結先フォルダーに複数連結元フォルダーを指定することはできません。
- 1 つの連結元フォルダーに複数連結先フォルダーを指定することはできません。
- フォルダー連結設定を行ったユーザーとは別のアカウントで Windows にログインすると、フォルダー連結設定は無効になりますが、連結元フォルダーは別アカウントのユーザーからも見えます。別アカウントのユーザーから見えないようにしたいときは、アカウント名固有のフォルダー (マイドキュメントなど) を連結元に設定することをおすすめします。
- アクセス制限されたフォルダーへのフォルダー連結機能はサポートしておりません。
- 複数ユーザーが同一のネットワークフォルダーを連結先として設定していた場合、複数ユーザーからの読み書きはネットワーク上の共有フォルダーを読み書きする場合と同一となります。連結先のフォルダーは共有フォルダーとして動作します（他ユーザーが書き込んだものも連結元から見えます）。

フォルダー同期機能

< フォルダー同期機能とは >

フォルダー同期機能では、TeraStation の共有フォルダーとパソコンのローカルフォルダーを同期させ、自動的にローカルフォルダーのファイルを TeraStation にアップロードすることができます。

フォルダー同期を使用するには、次の手順で設定します。

1 デスクトップの [BUFFALO NAS Navigator2] アイコンをダブルクリックします。
NAS Navigator2 が起動します。

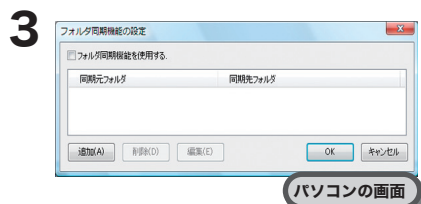
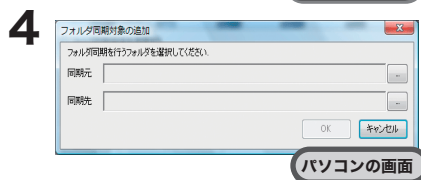
2

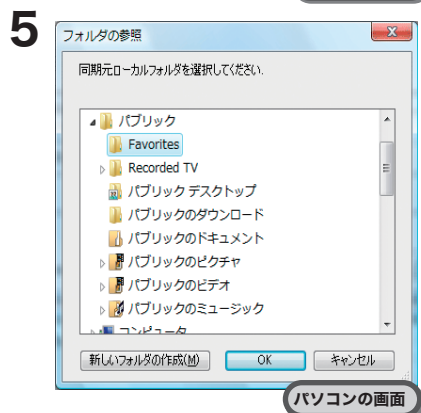
[フォルダー同期] をクリックします。

NOTE : Windows 8/7/Vista/XP/2000、Windows Server2003 以外の OS では、[フォルダー同期] は表示されません。

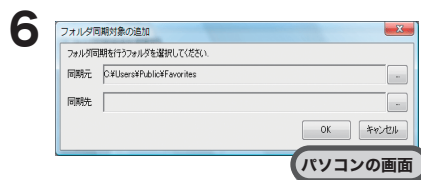
3

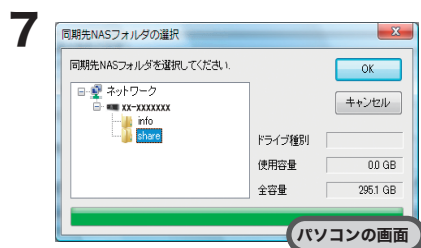
[追加] をクリックします。

4

[同期元] の右端にあるボタンをクリックします。

5

1 同期元にするパソコンのローカルドライブ内のフォルダーを選択します。

2 [OK] をクリックします。

6

[同期先] の右端にあるボタンをクリックします。

7

1 同期先にする TeraStation 内のフォルダーを選択します。

2 [OK] をクリックします。

8

[OK] をクリックします。

9

[OK] をクリックします。

以上でフォルダー同期機能の設定は完了です。

NOTE :
- フォルダー連結と同じ設定をフォルダー同期に設定することはできません。
- フォルダー同期を設定できる数は最大 10 個です。
- 1 つの同期先フォルダーに複数同期元フォルダーを指定することはできません。
- 1 つの同期元フォルダーに複数同期先フォルダーを指定することはできません。
- フォルダー同期機能は、同期元フォルダーへのファイル・フォルダー作成、書き込みを監視し、同じ操作を同期先フォルダーに対して行います。同期先フォルダー内のファイルを別途更新しても、同期元フォルダー内の同名ファイルを更新した時点で、同期先フォルダー内のファイルは同期元フォルダー内のファイルと同じ内容となります。同期元でのファイル操作が同期先に反映されます。
- 同期先のフォルダー（TeraStation 上の共有フォルダー）を複数のネットワークユーザーが読み書きする場合の排他処理はネットワーク上の共有フォルダーを読み書きする場合と同一となります。同期先のフォルダーは他ユーザーには共有フォルダーとして動作します。
- アクセス制限されたネットワークフォルダーの認証はユーザーの接続開始時またはシステム起動時にのみ行われます。認証に失敗した場合は、次回ユーザーの接続時またはシステム起動時でないと再度ネットワーク接続認証は行われません。エクスプローラーからのアクセスとは違いフォルダーにアクセスする時に認証が行われるわけではありません。
- 複数のユーザーが同一のネットワークフォルダーを同期先として設定していた場合はファイル名の重複などが発生する可能性があるため、動作を保証できません。
- 複数のネットワークユーザーが同一のネットワークフォルダーを同期先として設定していた場合、ファイル名の重複などが発生する可能性があるため、動作を保証できません。
- 同期先フォルダーは個別のユーザーしか書き込みアクセスできないような設定を行っておくことをおすすめします。

付録

出荷時設定

TeraStation は出荷時に以下のように初期設定されています。

●管理者名：Administrator

●パスワード：password

●共有フォルダー：設定されていません。

● DHCP クライアント
DHCP サーバーがネットワーク内にある場合は自動取得します。
DHCP サーバーがネットワーク内に無い場合は、次のように自動設定されます。
IP アドレス：169.254.xxx.xxx(xxx は TeraStation 起動時に任意の数値が割り当てられます。)
ネットマスク：255.255.0.0

●登録グループ：設定されていません。

● Microsoft ネットワークワークグループ設定：WORKGROUP

● RAID モード：C ドライブ：ディスク１、２のミラーリング
D ドライブ：すべてのディスクを使用した RAID5 モード
(WS-WVL シリーズをお使いの場合、D ドライブはディスク 1、2 のミラーリングとなります。)

●本製品にインストールされている機能、役割は次の通りです。

機能：BitLocker ドライブ暗号化、マルチパス I/O、ネットワーク負荷分散、リモートサーバー管理ツール、SMTP サーバー、SAN 用記憶域マネージャー、Windows　プロセスアクティブ化サービス、Windows Server バックアップの機能、.Net Framework 3.5.1 の機能　など

役割：ファイルサービス

※その他のインストールされている機能、役割については、[スタート]-[すべてのプログラム]-[管理ツール]-[サーバーマネージャー] をクリックし、サーバーマネージャー画面の [機能]、[役割] 画面でご確認ください。

●変更しているローカルセキュリティーポリシー：

[複雑さの用件を満たす必要があるパスワード] を [有効] から [無効] に変更しています。

液晶ディスプレイ表示一覧

TeraStation 本体前面には液晶ディスプレイが装備されています。表示内容は以下のとおりです。

通常表示

通常表示は、TeraStation 前面のディスプレイ切替スイッチを押すことで、表示を切り替えることができます。
また、P.6「LCD 表示設定」で表示項目を設定することもできます。

<table>
<tr><td colspan="2">液晶表示例</td><td>内容</td></tr>
<tr><td rowspan="4">LINK SPEED

※ LAN ポート 2 に LAN ケーブルを接続した場合、「LINK SPEED 2」と表示されます。</td><td>ＬＩＮＫ　ＳＰＥＥＤ
　Ｎｏ　ＬＩＮＫ</td><td>ネットワークに接続されていません。</td></tr>
<tr><td>ＬＩＮＫ　ＳＰＥＥＤ
１０Ｍｂｐｓ</td><td>10 Mbps で接続されています。</td></tr>
<tr><td>ＬＩＮＫ　ＳＰＥＥＤ
１００Ｍｂｐｓ</td><td>100 Mbps で接続されています。</td></tr>
<tr><td>ＬＩＮＫ　ＳＰＥＥＤ
１０００Ｍｂｐｓ</td><td>1000 Mbps 全二重接続されています。</td></tr>
<tr><td>ディスク容量</td><td>ＨＤＤ　　　　　　　＾
ＵＳＥＤ　　　Ｃ＿Ｄ■Ｅ█Ｆ█</td><td>TeraStation に内蔵されているハードディスクの領域 C、D、E、F の使用容量を棒グラフで表示します。DiskFull 状態のハードディスクには「^」が表示されます。</td></tr>
<tr><td>HOST 名・IP アドレス</td><td>ＷＳ−ＶＬｘｘｘ
１９２．１６８．１１．１５０</td><td>HOST 名と IP アドレスを表示します。</td></tr>
<tr><td>カレンダー時計</td><td>ＤＡＴＥ　　　　　ＴＩＭＥ
２０１１／０９／１７　１１：１１</td><td>TeraStation に設定されている日時を表示します。</td></tr>
<tr><td>搭載ＯＳ</td><td>Ｗｉｎｄｏｗｓ　Ｓｔｏｒａｇｅ
Ｓｅｒｖｅｒ　２００８　Ｒ２</td><td>TeraStation に搭載している OS 名が表示されます。</td></tr>
<tr><td>IP アドレス 2</td><td>ＮＥＴＷＯＲＫ２
１９２．１６８．１１．１５１</td><td>LAN ポート 2 に LAN ケーブルを接続している際の LAN ポート 2 の IP アドレスを表示します。</td></tr>
</table>

エラー表示、警告表示

ファンの回転数や TeraStation の内部温度の異常、ハードディスクが見つからないとき、TeraStation 前面の液晶ディスプレイに次のように表示されます。

液晶表示例	内容
SYSTEM Error E11 Fan Failure	ファンの回転数に異常があります。 ファンに異物や埃がないか確認してください。異物や埃があったときは、ピンセットやエアダスター等で除去してください。再度エラーが表示されるときは、当社修理センターへ修理を依頼してください。
SYSTEM Error E12 Cooling Failure	システムの温度上昇が、保障値を超えました。TeraStation の回りに物を置かないでください。TeraStation は涼しい場所に設置してください。
HDx Error E16 HDx Not Found	x 番のハードディスクが見つかりません。x 番のハードディスクが接続されていない、または x 番のハードディスクが故障している可能性があります。ハードディスクの交換をしてください。
HDx Broken E30 Replace the DISK	x 番のハードディスクが故障している、または x 番のハードディスクが接続されていない可能性があります。ハードディスクを交換してください。
SYSTEM I10 TOO HOT !	システムの温度上昇が、保障値を超える可能性があります。 TeraStation の回りに物を置かないでください。 または設置場所を涼しいところに移動させてください。
OperationModeI12 DEGRADE MODE	RAID のデグレードモード動作中です。
RAID I18 ARRAYxRebuilding	x 番の RAID アレイを再構成中です。再構成中は転送速度が低下します。
Replication I33 ReplicationFailure	x レプリケーションでエラーが発生しました。[バックアップ＆レプリケーション設定] 画面の [再同期] をクリックして、再同期を実行してください。

制限事項

オムロン社製 UPS と併用する場合のご注意

オムロン社製 UPS と併用する場合、TeraStation 前面の液晶ディスプレイが正常に表示されません。
これは液晶ディスプレイを制御するシステムと UPS が共に COM2 ポートを使用していることが原因です。
このようなときは、UPS に付属のマニュアルを参照して、UPS の通信ポートを COM2 以外に変更し、TeraStation を再起動してください。

共有フォルダーにアクセスできない、システムが不安定なときは

Windows Storage Server 上で動作・常駐しているソフトウェアの数が多いとメモリ不足によりシステムが不安定になったり、共有フォルダーにアクセスできなくなったりすることがあります。
このようなときは、Windows Storage Server で動作・常駐しているソフトウェアを終了、またはアンインストールし、TeraStation を再起動してください。

TeraStation が起動しなくなった場合の復旧手順

TeraStation に内蔵しているハードディスク 1 が故障した場合、TeraStation を起動することができません。
このようなときは、別途当社製ハードディスク OP-HD シリーズを用意し、次のように復旧してください。

1. TeraStation の電源が OFF 状態でディスプレイと USB キーボードを TeraStation に接続します。

2. TeraStation の電源ボタンを押し、電源を ON にします。

3. Boot Selection Popup ダイアログが表示されます。
   [AHCI：P1-xxxxxxxxxxxx] を選択してください。
   下線部は P1(ハードディスク 2) の例です。P0(ハードディスク 1) 以外の故障していないハードディスクを選択してください。

4. Windows Storage Server が起動します。通常通りリモートデスクトップからログインしてください。
   ※ Windows Storage Server のディスクの管理画面でハードディスクの状態を確認することをおすすめします。

5. RAID Builder でドライブ 1 を取り外してください。

6. 当社製ハードディスク OP-HD シリーズを挿入し、RAID Builder で再認識させてください。

7. リビルドを行ってください。

以上で復旧は完了です。